

町内会活動への提言

【中間監査の導入】町内会の「会計監査は現在、年度末に行われる1回であるが、昨年から続くコロナ禍は依然として終息の見通しが立たず、例年の活動ができるのか全くわからない。ワクチン接種がいつ、どのようにされるのか、感染力が強いと言われている変異ウイルスもある。従って半期に会計の状況を精査することは必要である、と考えるものです。これには会計監査の方の出番が伴います。

【町内会加入促進キャンペーン】町内会加入率は約78%とのことですが、近年新築住宅が続々と建てられているが、町内会に加入してもらうには年間を通して取り組むべきと思う。

①新築住宅の位置から町内会の何区になるのか？地図上に線引きをして、該当する区に周知をする。

②町内会費の負担が増えるが、町内会に加入することは除排雪費用の公平な負担をするという大きな側面があることを認識して望むべきである。

③近年、町内会では広報さつぽろの配布の返上、日本赤十字社の募金の戸別集金の中止など役員負担軽減を図っている。これに連絡協議会のパンフが加わる。



2月21日生活道路除排雪無事終わる

小野寺社会環境部長、9日間お疲れ様でした。



メディカルビル横



コープマンション横

ニシンの季節

戦中、戦後の食料難の時、道民を救ったのは「にしん」だった。また栄養失調などから「くる病」になる子どもを救ったのも「にしん」から作られた「身欠きにしん」であった。

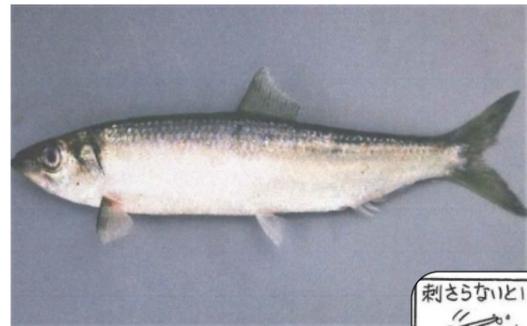
昭和20年代後半…札幌は函館の人口を抜き、白石村を合併しひと頃「グレート札幌」と呼ばれたものだ。

しかし中心部でもビルは数えるほどしかなく、舗装道路も北一条通り、札幌駅前程度しかなかった。

長い冬が終わり、日当りの良い所から土が顔を出す三月末、子どもたちは「釘刺し遊び」に夢中になった。夕方「こはんだよー」とお母さんが呼んでいる。どこの家庭も「にしん」を焼くのでそこらじゅうニシンの匂いが立ちこめる「じゃ、また明日」と言いつつ分かれる時に♪「サヨナラ三角 また来て四角…」と歌う。

昭和29年、あれほど捕れたニシンは全く捕れなくなった。近年、久しくわれわれの前から姿を消していたニシンが劇的な復活を遂げつつあります。いわく「にしん50年ぶりの豊漁」道新=2007年(平成19年)2月28日付

最近の報道でも2年前のニシンの漁獲量は3千トンをゆうに超えていると伝えていきます。



伝言板

- ・定期総会は「書面」にての開催の運びとなりました。
- ・資源回収 4月17日(土) 12:00より各ごみステーションにて 毎月第3土曜日